

カンボジアの子どもたちに学校体育の素晴らしさを届けるプロジェクト

ー学生の主体的活動を原動力にー

	代表者	入江航生（教育B 4年）
構成員	山村優（教育B 4年）内山将太（教育B 4年）市川智己（教育B 4年）	
	小西隼平（教育M 1年）恵藤美里（教育B 4年）	
	佐藤幸司（教育B 3年）千々松哲大（教育B 3年）	
	河村直彦（教育B 3年）三好一平（教育B 2年）	
	丸山航平（教育B 2年）河村朋彦（教育B 2年）	
	高橋涼（教育B 2年）黒田小真絵（農学B 3年）	
	原田勝（教育B 1年）小宮山晋吾（教育B 1年）	
	田中真矢（教育B 3年）三井咲穂（教育B 3年）	
	上田文音（教育B 3年）加藤紘平（教育B 3年）	
	田宮陽平（教育B 2年）原野結衣（教育B 3年）	
	中村俊裕（教育B 4年）柳井崇宏（教育B 4年）	
	河相直幸（教育B 2年）三上駿（教育B 2年）	
	橋本慎司（教育B 2年）	

1. プロジェクトの目的

本プロジェクトは、カンボジア・チョンカル群に於いて日本式の運動会を開催することでカンボジアの体育教育における体育授業の普及の先駆けになることを目的としている。また、日本の運動会のように保護者、地域の人々が観に来たり、出店が出たりといったような今だ「学校」というものが地域から疎外されているカンボジアの現状から「地域と学校のリンク」を狙った運動会の開催も一つの目標である。また前年度の1月に第Ⅰ期運動会を同群で開催している。そこで本プロジェクト「第Ⅱ期運動会」を学生自らによって立ち上げボランティア活動として活動を開始した。

2. プロジェクトの内容

今年度のプロジェクトの内容は、主に学生による学習会の開催、他大学、高等学校へ赴いて講義・寄付活動の実施、実際にカンボジアへ渡航しての視察調査である。以下にこれまで行った活動のスケジュールを示す。

<これまでの活動スケジュール>

2013年

- 4月 ～ プロジェクト発足会
- 4月 「前回経験者による本活動の紹介」学習会の開催
- 5月 「運動会とは？」学習会の開催
- 6月 「カンボジア渡航について」学習会の開催、
- 7月 「カンボジア運動会の紹介、国際教育協力とは？」日本体育大学へ赴き代表者による講義
- 7月 山口県内の高等学校へ赴き「山口大学の紹介・本プロジェクト活動の紹介」
- 8月 「カンボジア視察調査」JICA 訪問、Hearts of Gold 訪問、運動会開催予定校訪問・打ち合わせ
- 9月 「カンボジア視察調査報告」学習会の開催、山口県内の小学校におけるボランティア活動の展開
- 10月 「運動会を根付かせるためには何が必要？」学習会の開催
- 11月 カンボジアへの1週間の渡航
- 12月 今年度の活動の振り返りと来年度の課題、係りの引き継ぎ

3. 活動内容

3-1 学習会

「第Ⅰ期運動会」の反省と活動の紹介から始まり運動会の教育的価値，カンボジア渡航に向けての予備知識の習得，運動会開催にあたっての「運動会のスケジュール」「渡航のスケジュール」を話し合い，学習した学習会の開催を行った。特に視察調査報告後からの学習会は11月下旬に開催する予定の運動会について具体的な活動が始まり，日本式の運動会を実施することで工夫された運動会スケジュールを考案中である。

表 クメール語に翻訳することを考慮した工夫

日本語タイトル	クメール語タイトル (日本語訳)
2人3脚	→ 2人で3本の脚競走
デカパン競走	→ 大きいパンツ競走
カゴ引き競走	→ ボール運び競走

3-2 カンボジア視察調査

8月28日～9月5日までの1週間，実際にカンボジアへ渡航し視察調査を行った。調査内容は主に予め，開催を予定していた「チョンカル小学校」「チョンカル中学校・高校」への運動会開催の正式な許可を実際に校長先生と会って得ることと，今回新たに運動会を開催する予定の「チョンカル中学校・高校」の運動場や校舎，校庭の正確な図面を測量し図化することであった。他にも運動会で使用する用具を製作する際の物品調達の可・不可の確認，そして我々より以前にカンボジアにおける教育協力を展開しているJICA，Hearts of Goldの事務所へ訪問しカンボジアの現状や，国際教育協力の現状の聞き取り調査を行った。そして何らかの形で我々とジョイントすることができればより一層，「支援の輪」を広めることができる，というふうにも考えている。具体的な調査結果としては以下の通りである。

<視察調査結果>

- ・「チョンカル小学校」「チョンカル中学校・高校」の運動会開催の正式な許可
- ・物品調達可能であることの確認
- ・「チョンカル中学校・高校」の正確な図面の取得



チョンカル小学校の校庭の様子

3-3 「運動会」を開催するためカンボジアへ渡航

2013年11月23日～12月1日の1週間でカンボジアの小学校、中・高等学校で運動会を開催してきた。天候にも恵まれ無事2校で開催することができた。どうやってカンボジアの学校に運動会を根付かせていくか、ということを考え運動会で使用した物品は全て現地のマーケットで調達した。この理由としてどんなに楽しく運動ができ、現地教員自身で実際にやってみようという時に運動会で使われている物が日本の製品であればすることができなく、カンボジアの運動会にするためには現地の者で現地の人によって行われる運動会でなくてはならないと考えたためである。

運動会まで「現地視察、設営準備→リハーサル、お絵かき指導、清掃指導→運動会」といった3日間の流れを予定していた。リハーサルの時も現地の先生方に参加していただいた。この趣旨は指導方法や運動会当日の競技にスムーズにまた楽しめるようにする、といったものである。お絵かき指導は将来の夢や、身の回りの物を自由に子ども達に描くように指示をした。この際に用いたクレヨン、クーピー、用紙は寄付でいただいたものを使用した。清掃指導については、チョンカル小学校長きっての要望で「清掃」という習慣がないカンボジアの人たちに清掃をする姿を見せてほしい、子どもたちに教えてほしいということでカンボジアの子どもたちと一緒に行った。子ども達はどの活動に対しても意欲的に本当に楽しそうに取り組んでいた。その子ども達の純粋さ、というものは我々も驚くようなほどであった。運動会当日スケジュールもスムーズに進めることができ、子ども達、先生方、また地域の方々の満面の笑顔を見ることのできた1日になった。そして閉会式では、子ども達一人一人に参加賞として日本から持ち込んだ寄付物品(鉛筆、ノート、消しゴム etc.)を手渡して運動会は閉会した。1週間の渡航、慣れない地カンボジアでの生活で非常に疲れもスタッフ全員溜まっていたように思えたが子どもの笑顔を見て、運動会を運営し成功させた感動をスタッフ全員で感じることができた1週間であったと感じている。



子ども達が描いた絵を万国旗のように飾り付けた様子



運動会種目に取り組む子ども達の様子

4. 今後の課題

この活動で2度目のカンボジアでの運動会を実施してきたが様々な課題が残ったように思える。大きく2つに課題を分けて考察してみたい。1つ目は「現地の人のニーズ」という点である。先述にもある通り運動会は子ども、教員ともに意欲的に楽しく取り組んでいた。そして現地教員からも「私たち自身でやってみたい」「やっていて本当に楽しい」といったような声を聴くことができた。しかし一方では「物が足りていない」といったような声も上がっていた。次年度の活動に入っていく上で、「現地の人々の本当のニーズ」というものにも今まで以上に耳を傾けていきたいと考えている。2つ目は「学生プロジェクトの組織運営」についてである。今年度のプロジェクトは大半が教育学部の学生で、1名農学部が参加した。山口大学に国際教育協力のスピリットを広めていく上で経済学部、工学部、医学部、理学部の学生にも参加してもらえよう何かしらの工夫が必要であると感じている。具体的に渡航の期間（1年生はクォーターの授業のテストがかぶっていた）の見直し、全学部生への呼びかけの方法、組織体制の見直しなどを今現在考察中である。支援の輪を広げていく、ということにもなるがどの学部学科の学生にも参加しやすい環境を作っていくのが今後の今までを経験してきた我々の課題であり、目標であると感じている。